

第13回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時/場所	令和3年5月30日(日) 13:00~15:00/WEB開催
出席者	委員 14名、1名欠席(別添 熊野川懇談会委員名簿 参照)、河川管理者等 7名

1. 第110回河川整備基本方針検討小委員会の概要について

紀南河川国道事務所より、同小委員会で審議中の「新宮川水系河川整備基本方針の変更」の概要について報告した。

2. 「明日の熊野川整備のあり方(追記版)」(案)について

藤田委員長より、「明日の熊野川整備のあり方(追記版)」(案)の説明があり、各委員からの意見等を反映し、委員長一任でとりまとめられることが確認された。

3. 河川整備の目標について

河川整備の目標設定や整備内容の考え方について、つぎのとおり確認された。

- ① 熊野川河川整備計画では20~30年の実現可能な目標設定を行う。
- ② 関係者との議論を重ね、利水ダムのは治水協定では、全ての洪水に対応できないとしても河川整備計画に盛り込む方向で検討する。
- ③ 河川整備計画が策定された後でも、今後の出水や事業進捗によって計画は見直される。

4. 今後の予定

河川整備計画(案)公表までのスケジュールが確認された。

第14回の懇談会が6月27日に開催されることが確認された。

5. その他

第13回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用に設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

以上

◆委員からの主な意見（⇒は回答）

1. 第110回河川整備基本方針検討小委員会の概要について

■基本高水24,000m³/sはどのような考えで設定したのか。

⇒過去の実際の雨の降り方や将来予測した雨の降り方から算定した流量や紀伊半島大水害の実績洪水量などを総合的に判断し、実際の雨の降り方から算定した最大流量と紀伊半島大水害の実績洪水量に相当する24,000m³/sに設定された。

■今後、24,000m³/sを超える出水が発生する可能性もあるが、超えた場合には対策をしないということなのか。

⇒計画規模1/100の降雨に対して基本高水として設定されたものであるが、アンサンブル予測では26,000m³/sぐらいの流量になることが基本高水の設定において記録に残っており、超えるものについて考えないわけではない。

■アンサンブル予測降雨の中で、「過去の実績洪水には含まれていない将来の降雨パターン」というのがある。これは、実際にアンサンブル予測のシミュレーションの中で発生した時空間分布が過去のパターンにないものということを示していると思われるが、どのような分布だったのか教えて欲しい。

■「26,000m³/s（青丸）や過去の実績洪水には含まれていない降雨パターン（緑三角）は整備途上の上下流、本支川のバランスのチェック等に活用」との記載があるが、どういうことに気を使わないといけないのか。

■気温2℃上昇時の降雨量変化倍率1.1倍のシミュレーション期間はどれくらいか。この期間が熊野川整備のあり方で考えるタイムスケールと同じになると思う。

2. 「明日の熊野川整備のあり方（追記版）」（案）について

以下、あり方（追記版）（案）への各委員からの意見等

■SDGsの記載について、17項目の内のどの項目に該当するかを明示すべき。

■利水ダムの事前放流をより効果的なものにするため、降雨予測技術の向上に関する研究開発、特に長時間の予測技術の向上や常用洪水吐の検討が必要である。

■土砂の量的管理のみならず、動植物の生息・生育環境にも配慮した質的（粒径）管理も必要である。

■河道掘削の際には、魚の遡上生態にも配慮したみお筋の施工が必要である。

■河道内の耕作地・グランド等の比率が増えているがその背景は何なのか。

■「4. 社会環境における留意点」の記述で、「・・・濁度は低減傾向にある。しかしながら、平成23年以前の状態には未だ戻っていないのが現状である。」と記載すべき。

■川港遺跡がかなり広がっているようなので、川港遺跡に関する記述を「・・・熊野川河口域には自然堤防沿いに広がっているとみられる川港遺跡・・・」と記載すべき。

■「4. 社会環境における留意点」について、観光業への配慮だけでなく「コロナ禍における観光業への配慮や地域づくり、まちづくりも地域が一体となって考えていく」という表現にすべき。

■「6. その他の留意点」に「個々の留意点（濁水問題や土砂堆積等）を考えるとともに、留意点を総合的に考える」と記載すべき。

■超過洪水という文言をわかりやすく表現すること。

3. 河川整備の目標について

■利水ダムの治水協力を河川整備計画に位置付ける際は、河川整備計画以外の関連する法規等についても確認しつつ、事前に利水事業者など関係者との十分な議論が必要である。

⇒河川整備計画に盛り込む際には、法規等の整合にも配慮し関係者と調整を図っていきたい。

以 上

■ 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	所属	備考
井伊 博行 い い ひろゆき	水循環、水質	和歌山大学 システム工学部 教授	
泉 諸人 いずみ もろと	歴史・文化、 観光、林業	浦島観光ホテル株式会社 取締役 浦木林業株式会社 代表取締役	
加治佐 隆光 かじさ たかみつ	水資源工学	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	
岸上 光亮 きしがみ みつよし	農業経済、 地域政策	和歌山大学 食農総合研究教育センター 教授	
清岡 幸子 きよおか ゆきこ	地域の特性に詳しい (新宮市)	元新宮商工会議所女性会 会長	
高須 英樹 たかす ひでき	植物、生態系	和歌山大学 名誉教授 和歌山県立自然博物館 館長	
瀧野 秀二 たきの しゅうじ	水生生物、植物	元和歌山県立新宮高等学校 教諭 熊野自然保護連絡協議会 会長	委員長代理
立川 康人 たちかわ やまと	水工学 水文・水資源学	京都大学大学院 工学研究科 教授	
中島 千登世 なかしま ちとせ	地域の特性に詳しい (新宮市)	河川を美しくする会 副会長	
早坂 豊司 はやさか とよし	広報・報道	株式会社テレビ和歌山 報道制作本部長	欠席
藤田 正治 ふじた まさはる	河川・砂防、 森林工学	京都大学 防災研究所 教授	委員長
松尾 直規 まつお なおき	河川水質	中部大学 名誉教授	
森 信人 もり のぶひと	海岸防災工学	京都大学 防災研究所 教授	
山本 殖生 やまもと しげお	熊野の歴史・文化 ・信仰	国際熊野学会 代表委員 熊野三山協議会 幹事	
横田 浩 よこた ひろし	発電水力、 水源地域対策	エネルギー戦略研究所株式会社 取締役	